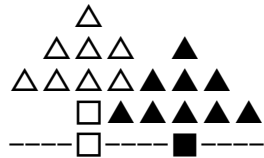


2009/10/1

北海道立林業試験場メールマガジン



『北の森の達人』

Vol. 20 第20号

読者の皆様へ

林業試験場の窓から見えるカラマツ林がうっすらと色づいてきています。今年夏は天候が不順だったせいか、いつもの年より少なめですが、場内にあるクリの木の周りにも新しいイガが目立つようになりました。森林も人も、そろそろ冬支度を始める季節になったようですね。

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

目次

- 刊行物ダイジェスト
平成20年度 北海道林業試験場年報
光珠内季報 No. 155
光珠内季報 No. 156
グリーントピックス No. 41
ホームページの紹介
森とみどりのQ&Aで解決!
今日の達人のささやき

刊行物ダイジェスト1

Web版平成20年度北海道林業試験場年報を発行しました。

- 平成20年度試験研究課題
平成20年度試験研究の概要
企画指導部 (2課題)
林業経営部 (10課題)
森林環境部 (5課題)
森林保護部 (5課題)
緑化樹センター (2課題)
支場 (3課題)
外部との共同研究 (19課題)
研究発表業績
技術指導並びに普及
物量の分析及び鑑定
特許・品種登録
林業専門技術員の活動実績
総務

<-刊行物詳細情報->
http://www.fri.hro.or.jp/kanko/nempo/nempo.htm

刊行物ダイジェスト2

林業試験場が平成20年度に取り組む試験研究のあらまし

- 防風保安林の台風被害を軽減するには
防風保安林の台風被害を軽減するため、2002年台風21号による被害要因の解析をおこなった。その結果、樹種としてはシラカンバ、チョウセンゴヨウマツ、ストロブマツなどは被害を受けやすく、カシワは被害を受けにくい事が示された。また、配置に関しては、風上林小班にカシワ林があると、被害が軽減することも明らかとなった。
土そりとグラップルローダによる集材
近年、道内で増えつつある“土そり集材”の調査事例を紹介する。これは土そりをグラップルローダで牽引して集材する作業方法である。今回調査した土そりの最大積載量は9.7m3であった。また、時間当たりの生産性は平均8.4m3/時となった。

<-刊行物詳細情報->
http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh21.htm

■刊行物ダイジェスト3・・・光珠内季報 No.156 (2009.9発行)

◇雄花の観察によるシラカバ花粉の飛散数予測

(林業経営部 八坂通泰)

近年、北海道ではシラカバ花粉症が急増し花粉症患者の60%以上を占めている。花粉症の効果的な予防や治療のためには花粉予報が欠かせない。林業試験場では衛生研究所と共同で雄花の観察による花粉飛散数の予測手法を開発した。開発した手法とその実用化について紹介する。

◇ハスカップ栽培の歩みー北海道の場合、海外の場合ー

(緑化樹センター 錦織正智)

北海道の自生植物クロミノウグイスカグラとケヨノミの果実“ハスカップ”は、海外においても、経済的価値のあるベリーとして高く評価されている。ここでは野生の植物であったクロミノウグイスカグラが作物として栽培されるようになった経過と、海外におけるハスカップ事情について報告する。

◇林地残材の集荷・チップ化システムの現状と課題

(林業経営部 酒井明香)

木質バイオマスが注目されている中で、利用率がわずか1%と活用がすすまない林地残材について、効率的な集荷・チップ化システムを検討した。林地残材が使いにくい原因として①遠隔地に散在し集荷・運搬コストが高価②水分が多くかさ張る③形状や成分が不均一等が挙げられるが、用材生産と組み合わせること、土場で自然乾燥させてからチップ化するなどシステム上の工夫で効率化を試みた。しかし、林地残材をチップ化し利用施設に運ぶまでの総費用が1tあたり9,000円～11,800円と、他の木質バイオマスと比較して非常に高価となった。今後、チップ生産性の向上や運搬費の削減を中心に、さらなる検討が必要である。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh21.htm>

■刊行物ダイジェスト4・・・グリーントピックス No.41 (2009.8発行)

◇ホロムイイチゴの増殖技術の開発

ホロムイイチゴは、福島県以北の湿原などに自生するキイチゴ属の植物です。昨今、自生地の湿地は乾燥が進み、植生の変化が急速に進んでいることから、組織培養によるクローン増殖技術を開発しました。現在、この増殖技術を活用したホロムイイチゴの保護や有効活用に関する取り組みが進められています。

◇地球温暖化時代における間伐の意義とは？

今や間伐は、林業的な役割だけでなく、地球温暖化対策上においても極めて重要な意義を持っています。では具体的には、温暖化対策において森林に期待されている役割に対し、間伐はどのような効果をもたらすのでしょうか？温暖化対策上の間伐の効果を検証するためカラマツ人工林の間伐試験地で調査を行いました。

◇24年生グイマツ雑種F1の成長からみた低密度植栽の有効性

林業の低コスト化の手段として、植栽本数を減らす低密度植栽に期待が高まっています。しかし、実際に植栽木の成長を長期間にわたって観察し、低密度植栽の有効性を検証した事例はこれまでありませんでした。林業試験場では1985年に様々な密度でF1を植栽した試験地を造成し、植栽から24年間の成長を継続調査してきました。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■ホームページの紹介・・・図書を紹介

◇「「森あそび」知的障がいのある人のために…」

(監修：北海道立林業試験場 発行：社団法人 北海道森と緑の会)

北海道立林業試験場において平成16～18年度に取り組んだ研究課題「知的障害者のための森林活用プログラムの開発」の成果をとりまとめました。福祉の現場に携わる方や森林を利用したレクリエーションに関心のある方など多くの方に利用していただくため、活動のすすめかたや実践例などを広く紹介しています。

<-図書の紹介->

<http://www.fri.hro.or.jp/bookshow.htm>

■森とみどりのQ&Aで解決！・・・ハスカップの育て方

【Q】ハスカップ（クロミノウグイスカグラ）の苗をもらったが、どのような所で栽培し

たらよいか？ また、どのような土に植えたらよいか？
【A】ハスカップは寒さに大変強いので、全道（全国）各地で栽培できます。日当たりが良く肥沃な土壌に植えると、実の付き方がよくなります。

＜森とみどりのQ & A 詳細情報＞
<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/search.asp>

■今日の達人のささやき・・・緑化樹センター管理技術科 錦織正智

枝先の芽の中から細胞分裂が旺盛な組織を取り出して、試験管の中で育てると、芽を取った親木と全く同じ姿形に育つクローン苗木をたくさん増やすことができます。これは組織培養と呼ばれる技術です。林業試験場では、実用的な組織培養の技術を開発し、民間企業へ技術移転しました。現在、技術移転先には、道内をはじめ本州の苗木生産業者から届くクローン苗木の生産依頼が年々増加しています。生産される苗木の用途は、家庭向けの花木や花材用の切り枝生産、小果樹生産、公共緑化など様々です。例えば、上富良野町では、ベリー園のオーナーが自ら食べて選んだハスカップなどの親木からクローン苗木が生産されて、オーナーの味覚を反映するベリー園づくりが進められています。林業試験場では、北海道で生産されるクローン苗木が様々な場面で暮らしを豊かにするものになるように、さらに研究を進める予定です。

////////////////////////////////////

- 発行・編集
北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山
- 問い合わせ
企画指導部森林情報室主査（情報管理）
電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い
北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することは
ご遠慮ください。

////////////////////////////////////